

私に出来る事

高橋 柚衣

昨年、夏が終わり初秋に入り始めた頃の事。
私はスーパーへ買い物に行^った。空は少し薄
暗い雰囲気。そんな中スーパーの入リ口をふ
と見ると、一人で座り込んでいる小さな女の
子がいた。私はその時、こんな中一人でいる
なんて危ないなあ。もしかしてお母さんはス
ーパーの中にいて、女の子だけ外で待^ってい
るのかな？と思^った。その時は何も気にして

いなかったからだ。

買い物が終わ^り、外はもうスーパーの明か
り以外の道は真^っ暗にな^っている頃、入り口
をまたふと見ると、さ^っきの子がまだ同じ場
所で座り込^んでいた。さすがにおかしい。さ
き買い物中に、その子の親らしい子供連れ
のお母さん達がいた。さ^っと退屈にな^って、一
人で外に出^てしま^ったのかな？とその時は思
ていた。少ししてそのお母さん達が出^てきた。
けれど何も気にする事なく素通りして行^って

しまった。やっぱりおかしい。私はとても不安になり、話しかけに行った。「どうしたの？ お母さんは？」
「○○くんが○○△ミレ話はまだ通じないくらいの年齢なのだ。今度はもつと分かりやすく、お母さんはどこにいるの？」と聞いてみた。すると「いえ。ひとりでしたの！」と勢いよく答えた。私はびっくりした。まだ小さい子だから本当の事が言えなくて嘘をついているんじゃないかと思っただけで、まわりを見てもその子を探して

いる様な人は見当たらない。こんなに小さい子を暗い中で一人にしちヤダメだと思った。私じゃどうすることもできないからサービスカウンターにいるお店の人に事情を話して、女の子と再度一緒に質問した。やっぱり返事は私の時と同じだった。お店の人も不審がっていて、「こちらで対応するので大丈夫ですよ」と女の子を連れてお店の中に入っ行ってた。その時は女の子が無時に保護されたと安心したが、帰ってからなぜかスツキリしない。

もう一度冷静にな、て思い返してみると、あ
の子の服装はおかしかった。暑いのか寒いのかよく分らないヨレヨレの服で、親が選んで着せた様な物には見えなかった。その日は朝から雨なんて降、ていないのに、長靴を履いていた。これは一番私の中で引、かか、て今でも忘れられない。ちぐはぐな服を着て、あんな暗闇の中一人でいたら虐待を疑うだろう。今でもあの子がどうな、たのかそのスパーに行くたびに気にな、てしまう。もしあの子が本当に虐待されている子だったら、あの時にスパーの人に引き渡すのではなく、児童相談所などの専門機関に引き渡した方がよかつたのではないかと思、た。自分の行動がああの場合、ていたのか分からない。普段平和に過、していたこの場所で、決ま、た訳ではないけど、ニュースで見る様な虐待をこんな身近に感じるとは思ひもなかった。私に知らないだけで、私の住む所にも助けを求め、ている子達が沢山いるのかなと思、た。だ、

てあの瞬間に、周りの大人達は小さい子が一人
人でいても、見て見ぬふりをして素通りして、
声をかける様な大人は一人もいなかったのだ。
この出来事があった数ヶ月後、学校に行く
前の二コースで気になる事があった。午前五
時埼玉県東松山市で一才の男の子が死した
というニュースだ。男の子は道路に一人でい
たらしい。そこにトラックが突っ込んでてく
なった様だ。こんな朝早くに一才の子が一人
で外にいるなんて、自分で玄関のドアを開け

て出る事が出来るとは思わなかった。アメリ
カでは、子供を一人で家にいさせる事が虐待
になるらしい。ベビーシッターを呼んで見て
もらう事が当たり前。でも日本では一人にし
ても罰せられる事はない。一度埼玉県でも、
家に子供一人でいさせる事を条例として禁じ
ようとしていたが、まわりからの反対運動も
あり、実現できなかった。私からしたら子供
が救われるならやっただ方がいいと思う。でも
今の日本は、核家族な上に共働きがほとんど。

生活する上での収入で手一杯なのに、ベビー
シッターを雇う程のお金を出すのも今の不景
気の中難しいだろう。少子高齢化の中、幼い
命を助ける事が日本の未来に繋がると思う。
その為には何が出来たろうか。私が出
来る事と言えは、虐待を疑うような現状を目
撃したら、間違ってもいいから迷わずにすぐ
声をかけて、専門機関に相談する事。私はこ
れからこの事を心がけようと思う。私は絶対
に、あの時いた見て見ぬふりする様な大人に
はなりたくない。